

親子を誘って魚釣りに出てみた！



Why

なぜ？

なかなか学校に行けない不登校の子どもたちを「魚釣り」に誘ってみたら、小さな変化が……。

Process

いつ、どこで、
どうやって？

ことゼミで、ひきこもり支援を行なっている市社会福祉協議会の職員と、ボートを持っている人が出会い実現。11月25日(月)に、宮島の裏側で魚釣りを開催しました。

Who

だれと？

船を持っている釣り好きの私、市社会福祉協議会の職員さん、不登校の中学生とそのお母さんと。

Report

どうだった？

ことゼミでの会話をきっかけに生まれた、引きこもり支援の魚釣り企画。不登校の中学生とそのお母さんの二人を誘って、宮島の裏側へ。アジやチダイなど、純粋に釣りを楽しみました。参加者同士が、通常の釣り人と同じように、いたって普通に接することを船上でも心掛けることで、自由でよい雰囲気になりました。また、後日談として、数日後に開催された学校行事の社会見学では、少し参加をしてみることができ、さらに担任の先生と言葉を交わすこともできたという話を聞きました。

どんなことがきっかけになるかわからないので、今後は釣りだけに限らず、色々を試してみようと思います。



引きこもりの課題は、学校内の人間関係形成の難しさ、様々な差異を排除する社会の意識など社会の側が変わらなければ解決しないことが多くあります。しかし、その一方で何かのきっかけに初めてあった人と一緒に作業や活動をして交流することで、かけがえのない人間関係を形成できる機会になるかもしれません。こんな小さな出会いをつくるために、ボランティア活動をコーディネートするソーシャルワーカーは重要な役割を果たします。